2017年12月3日 主日礼拝 礼拝説教（要旨）
聖書 イザヤ書7章1〜17節
説教「その名はインマヌエル」　　日本キリスト教会鶴見教会 牧師 高松牧人

マタイによる福音書は、主イエス誕生の次第を書いたとき、預言者イザヤの言葉を引用し、この出来事は「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」という預言が成就したのだと語っています。このインマヌエル預言とは、いったいいつ、どんな状況で語られたのでしょうか。

主イエス誕生よりも 700 年以上昔のことです。当時神の民は北王国イスラエル（エフライムとも呼ばれる）と南王国ユダに分かれていましたが、それぞれたいへんな危機の中におかれていました。それはメソポタミア北部にアッシリアという大国が出現し、シリア・パレスチナ地方に勢力を伸ばしてきたからです。その動きに小さな国々はおびえ、同盟関係を結んでアッシリアに対抗しようとしました。アラムとエフライムも同盟を結び、南王国ユダを自分たちの同盟に取り込もうとしていました。しかし、南王国の王アハズはその誘いに乗ろうとしなかったので、アラムとエフライムはユダに攻め込もうとしていたのです。彼らはアハズを引きずりおろし、自分たちに都合のよい王にすえることも考えていたようです。「王の心も民の心も、森の木々が風に揺れ動くように動揺」していたのです。

ある日、エルサレムの水路のほとりを歩いていたアハズのところにイザヤはやってきて語りかけます。「落ち着いて、静かにしていなさい　恐れることはない」。イザヤはアハズに、うろたえてはならない、軽はずみなことをしてはならない、追い詰められても、本当に私たちを助けてくださる神に目を注ぎ、神を信頼して堅く立てと勧めたのでした。

ところで、アハズは政治的にはなかなかやり手の王でした。彼は窮地に立たされつつ、密かに策をめぐらしていました。それは、脅威の的であるアッシリアと手を結び、貢物を送り、周りの国々が滅ぼされても、自分たちだけはアッシリアに守られて生きのびようとするものでした。

もちろんイザヤはそんな政策に激しく反対します。目先の利益と政治的な駆け引きだけを考えるアハズに、真の助けがどこから来るのか考えてみよ、主の御心から離れてどんなに賢いやり方をしても、そこには滅びしかないのだと警告するのです。イザヤはアハズに「主なるあなたの神に、しるしを求めよ。深く陰府の方に、あるいは高く天の方に」と勧めました。神が守ってくださることの証拠を求めてみよと言うのです。これは人の思いをはるかに超えた主なる神に問い、その御心を求めよということです。人間のレベルで考えるのではなく、神からの答えを見いだすようにせよと言うのです。

しかし、アハズは「わたしは求めない。主を試すようなことはしない」と言いました。一見信仰的な答えのように見えますが、アハズが断ったのは、預言者の忠告をかわし、

神に頼ることを避け、自分の考えを優先したかったからです。アハズにしてみれば、こんな切迫した状況で、神を信じよとか、神に聞け、などと言われても、それがいったい何になるのか、現実の政治の世界に神の御心や計画が意味をもつとは思えなかったのです。

そのとき語られたのがインマヌエル預言です。「それゆえ、わたしの主が御自らあなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ」。インマヌエルとは神は我々と共におられるという意味です。そのような名をつけられた子どもが、「凝乳と蜂蜜を食べ」、「災いを退け、幸いを選ぶことを知る前に」、すなわち彼が大きくなる前に、あなたが恐れる二人の王の領土、アラムもエフライムも滅びているだろうというのです。しかし、それとともに、あなたが頼っているアッシリアがあなたを助けるどころか、あなたたちの上に今まで知らなかったような災いと滅びをもたらだろうというのです。インマヌエル、神は我々と共におられるというしるしは、神を信じて堅く立つ者にとっては救いのしるしとなりますが、自分の知恵と力に頼るアハズにとっては裁きのしるしとなるのです。

インマヌエルという名の男の子を産む若い女性とはいったい誰なのか、そんな男の子が実際に生まれたのか、諸説がありますが、実際のところは何も分かりません。大事なのは、インマヌエルという言葉によって示された神の確かなご支配と働きを信じる信仰です。イザヤは厳しい預言と警告を発しつつ、神が我々と共におられるという信仰を王にも人々にも確認させ、彼らを神に立ち帰らせたかったのです。神は私たちの思いをはるかに超えた、人の目に不可能と思われる救いを成し遂げてくださる方です。

マタイによる福音書は、主イエス誕生の出来事を記すにあたって、ここでインマヌエル預言が実現したのだと語りました。独り子をこの世に遣わし、御子に私たち人間の罪を担わせて十字架上で裁かれた神は、そのことによって私たちに罪の赦しの道を開いてくださいました。そして、神は御子イエスを死の墓から復活させられることによって、主イエスを信じる私たちに新しい命を保証してくださいました。主イエスは私たちに約束して言われます、「あなたがたには世で苦難がある。しかし勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」（ヨハネ 16：33）。救い主イエス・キリストによってこそ、インマヌエル、神は我々と共におられるという事実がもっとも確かに、明らかに示されているのだというのです。

真実な神は、私たちの願いや考えや思い計ることにまさってよきことをしてくださいます。たとえ私たちは真実でなくとも、キリストは常に真実であられます。私たちには不可能と見えても、神にできないことは何一つありません。神は我々と共にいてくださる。そこに繰り返し立ち帰り、そこに望みをおくことが私たちの信仰なのです。